

いわき市長に清水氏



初当選し万歳する清水氏(中央)と妻明美さんら—8日午後9時40分ごろ、いわき市平

現職ら破り初当選

投票率 51.13% 市政刷新掲げ支持獲得

任期満了に伴ういわき市長選は8日、投票が行われ、即日開票の結果、無所属の新人で元県議の清水敏男氏(50)が、再選を目指した無所属現職の渡辺敬夫氏(67)―1期―と、元衆議議員宇佐美登氏(46)、自営業五十嵐義隆氏(35)の2新人を破り、初当選を飾った。4月の郡山市に続き中核市の首長選で現職が敗退した。投票を集めて再選を阻んだ。

いわき市長選開票結果

当	得票数	候補者	得票数	所属
55,367	清水敏男	50	無所属	新
48,179	渡辺敬夫	67	無所属	現
31,402	宇佐美登	46	無所属	新
3,377	五十嵐義隆	35	無所属	新

【清水敏男氏略歴】日大法学部卒。自民党県連総務会長、県議会子育て支援対策特別委員長、県議4期、市議2期、衆院議員秘書。いわき市常磐関船町屋津37の19

票率は51.13%で前回56.02%を4.89ポイント下回った。清水氏は県議4期、市議2期の政治経験を強調し、「震災後の閉塞感漂ういわきを元気にしたい」と市政刷新を主張。震災後の環境変化に伴う医療、雇用、住宅の各種課題解決を訴えた。組織力で上回る現職に対し、無党派層の支持や現市政の震災対応などへの批判票を集めて再選を阻んだ。当選の知らせを受けた清水氏は8日夜、選挙事務所ですupporterの歓声に迎えられ「市民の声を行政に反映させ一日も早い復興を実現させたい」と決意を語った。市政継続による復興を掲げた渡辺氏は、後援会や業界団体などの組織力で臨んだが、現職批判をかわせなかった。国政経験を強調した宇佐美氏、市民目線の行政を訴えた五十嵐氏は新たな行政の在り方を説いたが及ばなかった。

